

I. 紙の歴史について、文章を読んで問に答えなさい。

日本で紙がつくられはじめたのは6～7世紀ごろと考えられています。奈良時代に完成した『日本書紀』には、7世紀のはじめに朝鮮半島から渡来した僧侶が墨や絵の具とともに製紙技術を伝えた、と記されています。紙の材料には、おもに麻や楮などが使われ、手すきで生産されました。紙は貴重品であったため、一度使った紙の裏面を使ったり、すき直して利用したりすることもあったようです。これらの紙は、①公文書の作成や②お経などに使われました。

問1 下線部①のうち、政府が人びとに田を支給するために作成した文書が正倉院に残っています。この文書を何と呼びますか。

問2 下線部②を書き写すことを写経といいます。聖武天皇は、国ごとに国分寺を建てることや写経をすることを命じました。その理由を説明しなさい。

平安時代になると、貴族たちは、これまでに伝わってきた大陸文化を生かしながら、日本風の文化を育てていきました。これに一役買ったのは国産の紙でした。大陸の紙に比べて日本の紙の質は向上し、貴族たちに使われることになります。強くなめらかで、色どり豊かな紙の登場とともに、③かな文字や④絵巻物がつくられていきました。また、貴族たちは⑤やしきの中を、紙を使った仕切りでわけけるもありました。今日の「屏風」や「襖」がこれにあたります。これらには、はじめ大陸からもたらされた紙が使われていましたが、しだいに国産の紙が使われるようになり、日本の風景や四季の移り変わりがえがかれるようになりました。大陸風の絵に対して、このような日本風の絵のことを〔 ⑥ 〕と呼びます。

問3 下線部③について、平安時代のことを述べたア～エから、まちがっているものを1つ選びなさい。

- ア 漢字の形の一部から、かたかながつくられた。
- イ 漢字のくずし字から、ひらがながつくられた。
- ウ 政府が編集した正式な歴史書は、かな文字で書かれた。
- エ 清少納言はひらがなと漢字を使って『枕草子』を書いた。

問4 下線部④は図1のような形をしていました。この形は当時「卷子」と呼ばれ、紙でつくられた書物の一般的な形でした。しかしこの後、書物の形は図2のような「冊子」となっていきます。「卷子」に比べて、「冊子」がすぐれている点を答えなさい。

図1

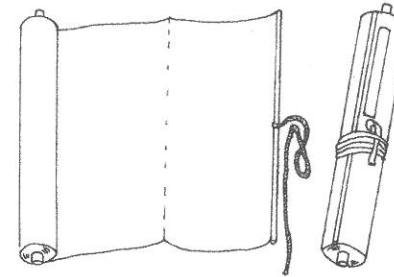
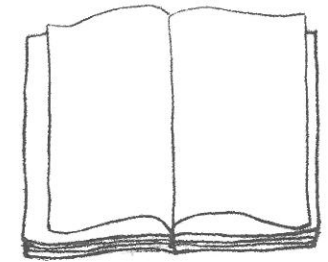


図2



問5 下線部⑤について、貴族たちの住宅様式を何と呼びますか。

問6 〔 ⑥ 〕にあてはまる語句を答えなさい。

鎌倉時代には、武士たちも紙を使いました。特に武士は自ら開墾した〔 ⑦ 〕の権利を証明したり、自らの命令を家臣に伝えたりするために文書のやり取りをたびたび行い、それらを保管しました。こうして紙に記録された文書は、寺院や神社などの建物や倉の中などに保存され、現在に伝わっています。室町時代のころになると、貴族や武士の住居には木の戸だけでなく、⑧木わくにうすい白紙をはったものが広く使われるようになりました。これを今日では障子と呼んでいます。

問7 〔 ⑦ 〕にあてはまる語句を答えなさい。

問8 下線部⑧について、(1)と(2)に答えなさい。

- (1) 下線部⑧の利点を答えなさい。
- (2) 室町時代において、障子、襖、畳、ちがいで棚などを使った部屋がつけられました。このような部屋を含む建築様式を何と呼びますか。

江戸時代になると、商売をしたり、幕府や藩の指示を受けて村を運営したりするために読み書きをする人が増えました。そのため庶民の中にも紙を日常的に使う人びとが現れました。⑨紙を使った商品を専門に売る人びともいました。また、印刷の技術が向上したことで⑩さまざまな書物が出版され、人びとに読まれるようになりました。⑪版画の印刷技術も進んで、多色刷りも可能となりました。こうして大都市では特に多くの紙が必要になり、一度使われた紙をすき直して利用することもめずらしくはありませんでした。こうした紙は、すき直しが行われた地名から「浅草紙」や「湊紙」などと呼ばれ、用を足すときなどに使われました。

問9 下線部⑨として、まちがっているものをア～エから1つ選びなさい。

- ア くし イ うちわ ウ 傘 エ ちょうちん

問10 下線部⑩について、江戸時代の書物のことを述べたア～エから、まちがっているものを1つ選びなさい。

- ア 杉田玄白たちは、中国語で書かれた医学書を翻訳して、『解体新書』を出した。
イ 町人の姿を生き生きとえがいた芝居の脚本が数多く出された。
ウ 本居宣長は、日本の古典を研究して『古事記伝』を完成させた。
エ さし絵入りの本や地図などが売られた。

問11 風景や人気の役者をえがいた絵が、下線部⑪のような技術を使って、版画として大量に刷られ安く売られました。このような絵を何と呼びますか。

明治時代になると、⑫政府は近代化のためにさまざまな政策を実行しましたが、その中には多くの紙を必要とするものがありました。また、政治の動きや欧米の新しい考え方は⑬紙を使って多くの人びとに伝えられるようになりました。はじめは、手すきの紙や輸入紙にたよっていましたが、政府や有力な商人たちは、欧米から機械を輸入して国内で大量の紙をつくる工場をたてました。紙の原料も、明治時代の中ごろからは、木材の繊維からとったパルプが使われるようになりました。また、印刷技術の向上や、新たな筆記用具の普及により、紙の種類は増え、質も向上しました。明治時代のおわりから大正時代のはじめには、⑭北海道や樺太にも大規模な製紙工場がたてられました。このように、はじめは輸入にたよっていた紙の国産化が進みました。また、明治時代のおわりごろには、割れやすいものを包んだり、箱の形に組み立てて中に物を入れたりするための紙が国内ではじめてつくられ、「段ボール」と名付けられました。

問12 下線部⑫のうち、地租改正による税の納め方の変化を説明しなさい。

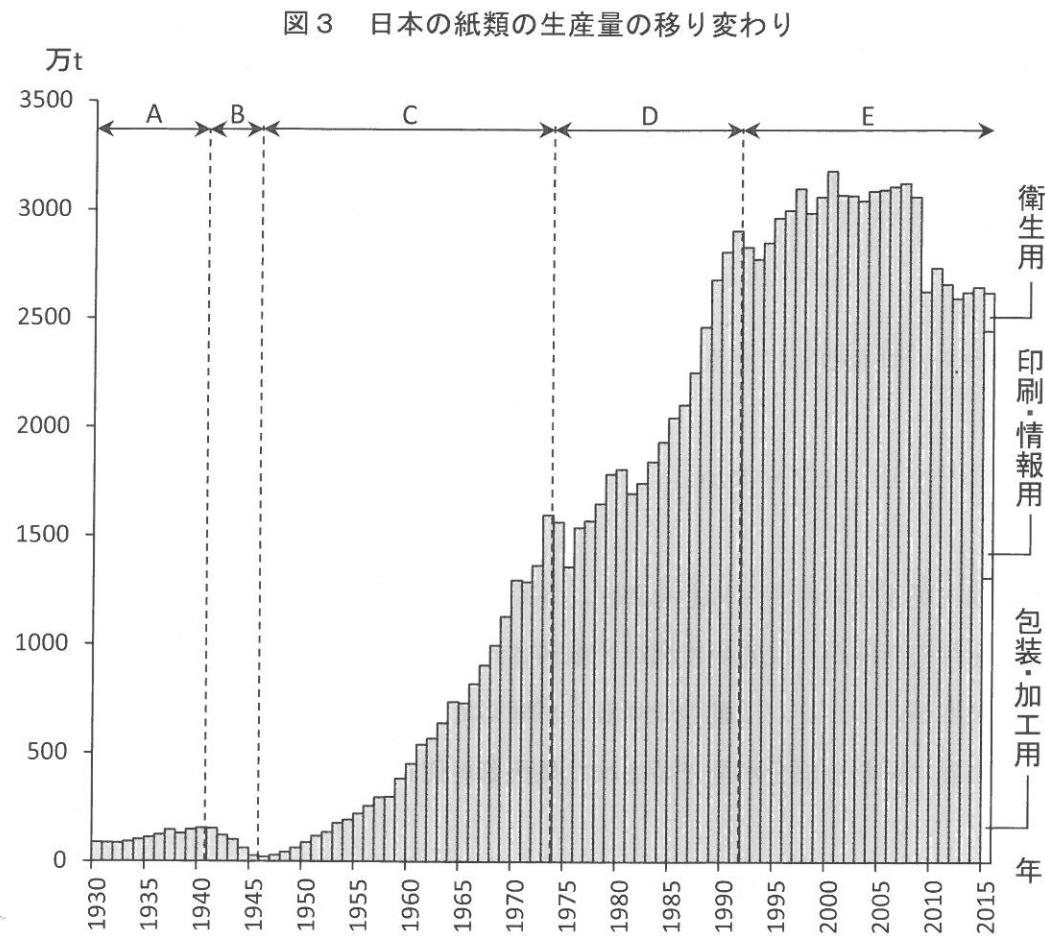
問13 下線部⑬について述べたア～エから、明治時代のこととしてまちがっているものを1つ選びなさい。

- ア 福沢諭吉が『学問のすゝめ』を書き、多くの人びとに読まれた。
イ 毎日発行の新聞が、はじめて横浜で創刊された。
ウ 郵便制度がはじまり、手紙のやり取りが増えた。
エ 軍国主義に関わる部分が墨で消された教科書が使われた。

問14 下線部⑭について、北海道や樺太に製紙工場をたてることの利点を、紙の原料に注目して説明しなさい。

Ⅱ. 以下の図や表をみて問に答えなさい。

図3は、1930年以後の日本の紙類の生産量の移り変わりを示したものです。2015年については、使いみちの内わけを示しました。紙類の生産量は、紙類の消費量とほぼ同じです。



日本製紙連合会『紙・板紙統計年報』，『日本国勢図会』，
経済産業省『紙パルプ統計年報』をもとに作成

問1 次の①～④の文は図3中のA～Eのどの時期にあてはまりますか。記号で答えなさい。同じ記号を2回以上使ってはいけません。

- ① 石油の値段が急に上がり、紙類の生産量が減った。
- ② 日中戦争がはじまり、紙類の使用が制限された。
- ③ 紙類やパルプの生産工場から廃液が大量に出、公害が大きな問題になった。
- ④ 連合国との戦争の影響で、紙類の生産が困難になった。

問2 図3で2015年の生産量を使いみちにわけてみると、もっとも多いのは包装・加工用です。その中では、段ボール用紙がもっとも多く、生産量全体の35%をしめています。段ボールの利用について、(1)と(2)に答えなさい。

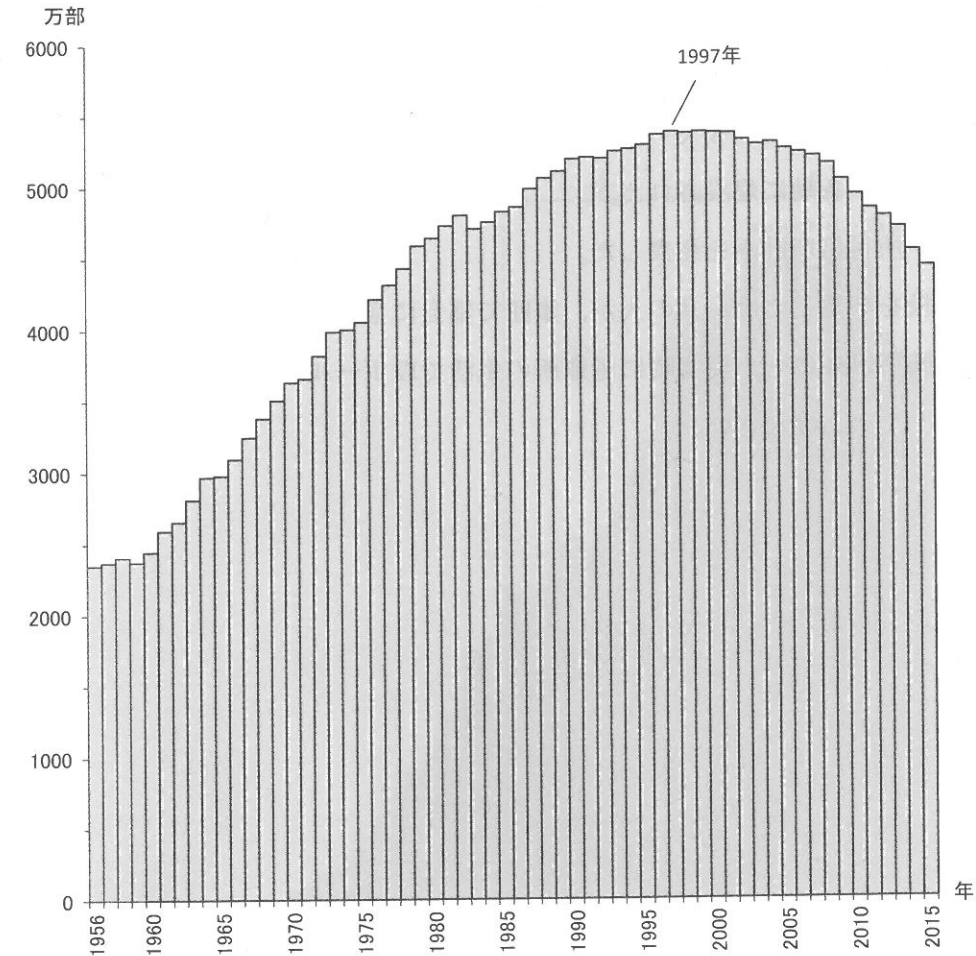
(1) 段ボール箱の利用が急速に増えたのは図3のCの時期です。この時期に、例えば、みかんの輸送には、木箱にかわって段ボール箱が使われるようになりました。Cの時期のこととして、まちがっているものをA～Eから1つ選びなさい。

- A 渋沢栄一が、銀行や多くの会社を設立した。
- I 高速道路が各地に建設された。
- ウ 政府が所得倍増計画を発表した。
- E 中学校を卒業したばかりの人が、集団で都会に就職した。

(2) 最近、包装用以外にも、災害時に避難所の生活で段ボールが利用されます。どのようなことに使われますか。1つあげなさい。

問3 2015年の紙類の生産量のうち、包装・加工用のつぎに多いのは印刷・情報用です。その中では新聞用紙がいちばん多く、紙類の生産量全体の11%をしめていました。新聞について、図4をみて(1)と(2)に答えなさい。

図4 新聞の発行部数の移り変わり



日本統計協会『日本長期統計総覧』および総務省の資料をもとに作成（新聞の発行部数は、新聞協会会員社のみのもの。1955年以前は統計の取り方がちがうので、1956年以後に限った。）

- (1) 新聞の発行部数は、図4のように1960年から1980年ごろまで増え続けました。このことには世帯の増加が関係しているといわれています。世帯とは、住まいと家計をともにする人びと（1人の場合もある）の単位です。世帯の増加が新聞の発行部数の増加につながる理由を、新聞の入手方法から考えて説明しなさい。
- (2) 図4に示したように、新聞の発行部数は1997年をピークに減り続けています。同じ時期にパソコンなどを用いて情報を取り入れる仕組みとして急速に普及したものがあります。それを何と呼びますか。

問4 紙類の生産量の中で、衛生用紙は包装・加工用紙や印刷・情報用紙に比べて少ないものの、日常生活に欠かせません。表1は、2015年における衛生用紙の生産量の内わけを示したものです。X・Yは何ですか、品目を2つ答えなさい。答えは、順不同でかまいません。

表1 衛生用紙の生産量の内わけ(2015年)

品 目	万t
X	100
Y	44
タオル用紙(キッチンペーパーや手ふき用など)	19
その他の衛生用紙(テーブルナプキン、おむつ用紙など)	10
計	173

経済産業省『紙パルプ統計』、日本製紙連合会『紙・板紙統計年報』をもとに作成

問5 表2は、2015年における紙類のおもな原料の内わけを示したものです。図5は紙類のおもな原料の内わけの移り変わりを調べたものです。これらをみて(1)と(2)に答えなさい。なお、古紙とは製紙用の原料として回収された紙製品のことで

表2 紙類のおもな原料の内わけ(2015年)

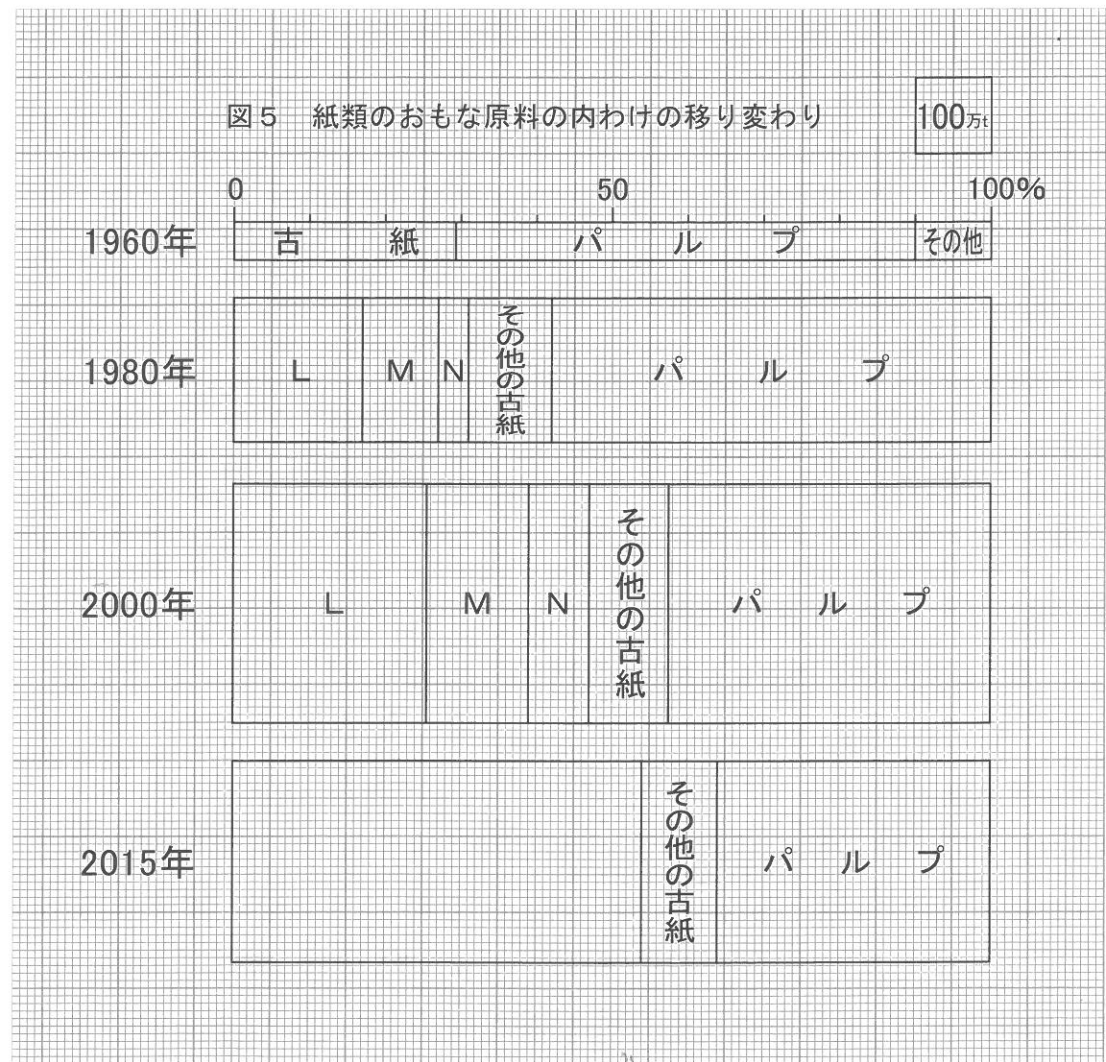
原 料		万t
古 紙	L	860
	M	390
	N	190
	その他の古紙	260
パルプ		950
計		2650

日本製紙連合会『パルプ統計』をもとに作成

(1) 表2のL, M, Nは、2015年に回収された古紙です。Lは何ですか。正しいものをア～エから1つ選びなさい。

- ア 紙パック
- イ 新聞
- ウ 雑誌
- エ 段ボール

(2) 図5の2015年のグラフは書きかけです。古紙の内わけがわかるように、表2を使い1980年と2000年の例にならって完成させなさい。



古紙回収促進センター『古紙ハンドブック』，経済産業省『紙パルプ統計年報』，
日本製紙連合会『パルプ統計』をもとに作成

Ⅲ. これまでみてきたように、紙は情報の記録や伝達あるいはそれ以外の使いみちにおいて、私たちの生活の中で広く利用されています。これまでの文章や問題を参考にして問に答えなさい。

問1 情報の記録や伝達において、日本に伝わってから明治時代まで、紙はどのように使われてきましたか。紙を多く使った人びとの移り変わりに注目して説明しなさい。

問2 情報の記録や伝達以外の場面でも、現在私たちは紙の^{とくちょう}特徴をいかした製品を使っています。例えば包装用に段ボールを使う場合に、どのような特徴をいかしていますか、説明しなさい。

I.
問1

問2

問3※

問4

問5問6問7※

問8 (1)

(2)

問9問10問11※

問12

問13

問14※

II.
問1 ① ② ③ ④

問2 (1) (2)

問3 (1)

(2) ※

問4

問5 (1) (2)

紙類のおもな原料の内わけ

100万t

050100%

2015年

その他の古紙

パルプ

日本製紙連合会『パルプ統計』をもとに作成

III.
問1※

問2※

問2※

受験番号

氏名

評点

※